

2020 年度 センター試験 本試験 日本史 B 【解答】

問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点	問題 番号	設問	解答 番号	正解	配点	
第 1 問 (16)	A	1	1	1	第 4 問 (16)	A	19	1	2	
		2	2	1			3	20	5	3
		3	3	4			2	21	3	3
	B	4	4	5		3	B	22	2	2
		5	5	3		3		23	4	3
		6	6	3		3		24	3	3
第 2 問 (16)	A	7	4	3	第 5 問 (12)	25	3	3		
		8	1	2		26	4	3		
		9	1	3		27	4	3		
	10	3	3	28		2	3			
	B	11	2	2	第 6 問 (24)	A	29	4	3	
		12	1	3			30	2	3	
13		2	3	31			1	3		
A	14	4	3	B		32	3	3		
	15	2	2			33	2	3		
	16	2	2			34	4	3		
B	17	2	3	C		35	1	3		
	18	1	3			36	1	3		

2020年度 センター試験 本試験 日本史 B

第1問 教育の歴史と歴史の教育

出題範囲	古代から近代における教育と歴史
難易度	★★★☆☆
所要時間	得意：8分 ふう：9分 苦手：10分
傾向と対策	2020年度の第1問は、教育制度の歴史と歴史を学ぶ意義についての会話文をテーマに、古代から近代までの基礎知識を問うものであった。教育をテーマにしているためか、文化史の出題が多く、文化史の学習を疎かにしていた受験生にとっては難易度が高く感じたかもしれない。しかし、問われている内容は教科書に載っているレベルであるため、教科書・参考書・資料集などをしっかりと読み込んで、完答できるようにしておこう。

A

問1 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

ア 学制が入る。1871年、近代化を掲げた明治政府は国民の知識水準の向上を目指し、教育担当の行政機関である^{もんぶ}文部省を設置し、翌年（1872年）には学制を公布した。しかし、フランスの制度を参考にしてつくられた学制は、画一的で国民生活の実情に合わない点が多かった。そのため、1879年に廃止され、アメリカの制度を参考にした教育令が新たに公布された。

イ フランシスコ＝ザビエルが入る。1549年、イエズス会（「^{やそ}耶蘇会」とも呼ばれる）の宣教師であったザビエルは鹿児島に来航し、大内氏・大友氏などの大名の保護を受けて布教を行った。ヤン＝ヨーステンはオランダ人航海士であり、イギリス人水先案内人のウィリアム＝アダムズとともに、幕府の外交・貿易顧問として江戸初期に活躍した人物である。「16世紀なかばに来航」「宣教師」という本文の記述から判断するのが良いだろう。

以上より、アー学制、イーフランシスコ＝ザビエルである①が答えとなる。

問2 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

X 正 ^{べつそ}大学別曹とは、平安時代に有力な氏族が一族子弟のために設けた教育機関である。藤原氏の^{かんがくいん}勸学院、^{わけ}和気氏の^{ありわら}弘文院、在原氏や皇族の奨学院などが有名である。図1の左下を見ると、「勸学院」があるため、この文は正しい。

Y 正 金沢文庫は、北条実時^{さねとき}（金沢実時）が金沢につくった施設であり、和漢の書が集められ、学問の場として機能していた。

以上より、X-正、Y-正である①が答えとなる。

問 3 3 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 綜芸種智院^{しゆげいしゆちいん}を設けたのは、空也^{くうや}ではなく空海^{くうかい}である。空海は、9世紀初頭に遣唐使とともに中国に渡り、長安^{みつきやう}で密教^{みつぎやう}の奥義をきわめた。帰国後は高野山に金剛峰寺^{こんごうぶじ}を建て、真言宗^{しんごんしゆう}を開いた。空也は、10世紀以降の浄土教^{じゆん土きやう}の流行のなかで、京の市で貴族や庶民に念仏の教えを説いた人物であり、「市聖^{いちのひじり}」と呼ばれた。
- ② 『読史余論^{とくしよろん}』は、江戸時代中期（元禄文化）に新井白石^{はくせき}が著した書物であり、武家政権の推移について独自の歴史論を展開したものである。よって、室町時代には存在していない。
- ③ 懐徳堂^{かいとくどう}は、18世紀初めに大坂の町人の出資で設立され、幕府の援助も受けていた教育機関である。よって、選択肢の「京都」という部分が誤りである。
- ④ 1941年、小学校は国民学校に改められ、皇国民の育成を目的とする国家主義的な教育が強化された。当時日本の植民地であった朝鮮や台湾においても、「皇民化」政策が推進された。

以上より、答えは④である。

B

問 4 4 正解は⑤

難易度 ★★☆☆☆

解説

- I 1543年（もしくは1542年）、ポルトガル人を乗せた中国船が種子島^{たねがしま}に漂着した。当時、島主だった種子島時堯^{ときたか}は、ポルトガル人が持っていた鉄砲^{てつぱう}（火縄銃）を求め、家臣にその使用法と製造法を学ばせた。
- II 豊臣秀吉が朝鮮侵略を初めて行ったのは、1592年の文禄の役^{ぶんろく}である。釜山^{プサン}（朝鮮半島南東部）に上陸した15万余りの大軍は漢城^{かんじやう}（現在のソウル）や平壤^{ピョンヤン}を占領するまでに至ったが、朝鮮水軍を率いた李舜臣^{りしゆんしん}の活躍もあり、失敗（一時休戦）に終わった。その後、1597年の慶長の役^{けいぢやう}で、秀吉は大軍を再び朝鮮に派兵したが、翌年（1598年）の秀吉の病死を契機に撤兵が行われた。これらは、朝鮮においては壬辰・丁酉倭乱^{じんしん ていゆう}と呼ばれている。
- III 陳和卿^{ちんなけい}は鎌倉時代初期に活躍した人物で、東大寺大仏殿の再建や大仏の鑄造に取り組んだ工人である。1195年に再建が完了した大仏殿の建築様式は、大仏様^{だいぶつやう}（天竺様^{てんじく}）と呼ばれる大陸由来のものであった。

以上より、古いものから年代順にⅢ（鎌倉時代初期）－Ⅰ（1542～43年）－Ⅱ（1592～98年）となるので、

⑤が答えとなる。

問5 5 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- X 「藤原氏の繁栄の歴史を描くことを目的に」という部分から、bの『^{えいが}栄華（栄花）物語』が該当すると判断できる。『栄華（栄花）物語』は、藤原道長を中心とする藤原氏の繁栄の歴史を賛美的に描いたものである。作者については不詳だが、^{あかぞめえもん}赤染衛門という説が有力である。平安時代末期（院政期）に成立した『^{こんじゃく}今昔物語集』は、インド・中国・日本の1000以上の説話を集めた説話集であり、歴史物語ではない。
- Y 「仏教や儒教が伝わる前の、日本古来の思想や生活を究明する目的で、歴史書の研究を進め」る学問は、江戸時代中期以降に発展した^{こくがく}国学である。よって、cの^{もとおりのりなが}本居宣長が該当する。本居宣長は、『古事記』を精密に研究して『古事記伝』を著したことで知られる。^{じんさい}伊藤仁斎は、京都に私塾の^{こぎどう}古義堂を開いた儒学者である。
- 以上より、X-b、Y-cである③が答えとなる。

問6 6 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- a 史料内の「幾度も潤色せられ変改せられて、今に遺っている」という部分から、津田が「記紀の上代の記述には、記紀が編纂された時代の人々の手が加わっていない」とは考えていないとわかる。また、史料内の「記紀の上代の物語は歴史では無くして寧ろ詩である」などの記述から、記紀の上代の物語の記述を史実とはみなせないと主張しているとわかる。
- b 史料内の「詩は歴史よりも却ってよく国民の内生活を語るものである」という部分から、記紀の上代の記述には、記紀が編纂された時代の思想（「内生活」）がよく表れていると津田が主張していることがわかる。よって、この選択肢は正しい。
- c 大正デモクラシー期に^{さくぞう}吉野作造が唱えた^{みんぼん}民本主義は、政治の目的が民衆の福利にあり、政策決定は民意に基づくべきと主張したものである。よって、この選択肢は正しい。
- d ^{せつれい}三宅雪嶺らが雑誌『日本人』を創刊して^{こくすい}国粋（国粋保存）主義を唱え、西洋文化の無批判な模倣・受容に警鐘を鳴らしたのは、大正期ではなく明治期のことである。
- 以上より、b・cである③が答えとなる。

(梶野裕貴、的場光紀)

2020年度 センター試験 本試験 日本史B

第2問 古代国家の辺境支配

出題範囲	古代における中央と「辺境」
難易度	★★★☆☆
所要時間	得意：7分 ふう：8分 苦手：9分
傾向と対策	2020年度の第2問は、古代国家の辺境支配に関するリード文をもとに、古代における中央と「辺境」の関係性を問うものであった。問われている内容は基本的なものであったが、このテーマは意外と「抜けがち」なので、苦勞した受験生も多かったかもしれない。資料集・図説などに載っている「古代の行政区画」の地図も活用しつつ、教科書で基礎事項を地道に覚えていこう。なお、本問で出題されたテーマは、中央集権化を進める「帝国」の領域拡大、「小中華」としての日本、などをテーマとする論述問題にも関連しているので、二次試験で日本史の論述が課される受験生はよく復習しておこう。

A

問1 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

- ア **大隅国**が入る。713年に設置された大隅国は現在の鹿児島県東部に位置し、古代における薩摩国と大隅国を合わせた領域がおおよそ現在の鹿児島県全体に対応する。それに対して、古代における肥後国は現在の熊本県におおよそ対応する。文章内の「九州南部」という記述から、大隅国の方が適切であると判断したい。
- イ **鎮守府**が入る。724年に築かれた**多賀城**（現在の宮城県多賀城市）には、出羽・陸奥における政治の中心となる陸奥国府のみならず、蝦夷対策の拠点である**鎮守府**も設置された。**太宰府**は九州北部に設置されたため、ここでは不適である。

以上より、アー大隅国、イー鎮守府である④が答えとなる。

問2 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

- a **三内丸山遺跡**は現在の青森県青森市に位置する、縄文時代前期～中期の集落遺跡である。よって、この選択肢は正しい。
- b 弥生時代になっても、北海道には水稲耕作（**弥生文化**）は伝わらず、採取や狩猟・漁労を中心とする縄文文化が継続した。これを**続縄文文化**と呼ぶ。
- c 弥生時代になっても、奄美・沖縄などの南西諸島には水稲耕作（**弥生文化**）は伝わらず、採取・漁労を中心

とする文化が 11～12 世紀まで続いた。これを^{かいづか}貝塚文化と呼ぶ。よって、この選択肢は正しい。

- d 種子島・屋久島が中央政府の支配下におかれたのは、10 世紀ではなく 8 世紀である。九州南部が 8 世紀前半に中央政府の支配下に置かれたことについては、問 1 のアの解説（この解説の 1 ページ参照）も確認しておこう。

以上より、a・c である①が答えとなる。

問 3 9 正解は①

難易度 ★☆☆☆☆

解説

X 正 図 1 を見ると、政庁とは別に、曹司と呼ばれる役所があるとわかる。図 2 についても同様に、政庁とは別に、^{かんが}官衙と呼ばれる役所が配置されているとわかる。よって、この文は正しい。

Y 正 図 1 と図 2 を見比べると明らかなように、図 2（徳丹城）は外郭を備えているのに対して、図 1（下野国府）は外郭を備えていない。よって、この文は正しい。

以上より、X-正、Y-正である①が答えとなる。

B

問 4 10 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

ウ ^{これはりのあざまろ}伊治皆麻呂が入る。780 年、中央政府に帰順した蝦夷^{えみし}であり、郡司を務めていた伊治皆麻呂は反乱を起こし、一時は多賀城をおとし入れた。その後、蝦夷と中央から派遣された大軍との間の戦争は 38 年間続いた。^{アテルイ}阿弭流為は、律令政府の蝦夷征討に抵抗しつつも、802 年に征夷大將軍^{さかのうえのたむらまろ}坂上田村麻呂に帰順した蝦夷の族長である。

エ ^{しわじょう}志波城が入る。802 年に築かれた^{いさわじょう}胆沢城の北方に翌年（803 年）築かれたのは、志波城（現岩手県盛岡市）である。「北上川中流域」という記述から、日本海側の秋田城ではなく太平洋側の志波城が該当すると判断したい。なお、^{あきた}秋田城は 733 年に東北地方日本海側に築かれた城柵である。

以上より、ウ-伊治皆麻呂、エ-志波城である③が答えとなる。

問 5 11 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

X ^{かんむ}桓武天皇の時に行われた^{とくせいそうろん}徳政相論（徳政論争）と呼ばれる議論において、蝦夷征討の中止を主張したのは藤原^{おつぐ}緒嗣である。彼は「天下の民が苦しむところは軍事と造作である」と述べ、国家財政の圧迫や民衆の負担を伴う軍事（蝦夷征討）と造作（平安京造営）の二大事業の打ち切りが決定された。藤原^{なかなり}仲成は、810 年の

葉子の変（平城太上天皇の変）において、平城太上天皇とともに再び権力を握ろうとした藤原葉子の兄である。この争いは迅速な対応をとった嵯峨天皇側が勝利し、藤原仲成は射殺された。

Y 唐風の書（唐様）にすぐれ、嵯峨天皇・空海とともに三筆の一人に数えられたのは、橘逸勢である。橘諸兄は、藤原 4 兄弟が天然痘によって死去した後、に政権を握った奈良時代の人物であり、玄昉や吉備真備とともに聖武天皇の信任を得て政界で活躍した。

以上より、X-a、Y-d である②が答えとなる。

問 6 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- a 史料内の「道奥の蝦夷男女二人をもちて、唐天子に示せてまつ」という部分から、遣唐使（小錦下坂合部連石布）が陸奥の蝦夷二人を連れて唐に渡り、唐の皇帝（高宗）に謁見したとわかる。よって、この選択肢は正しい。
- b 史料の三行目以下の「」内において、唐の皇帝と遣唐使の間の会話が示されているが、「天子問いて曰く」→「使人謹み答えて」の繰り返しになっていることからわかるように、「唐の皇帝が、遣唐使に」質問しているのであって、「遣唐使が、唐の皇帝に」質問しているのではない。
- c 史料の三行目以下の唐の皇帝と遣唐使の間の会話を参照すると、『無し。肉を食いて存活う』という部分から、蝦夷は五穀ではなく肉を食べて生活していると説明されていることがわかる。また、『無し。深山の中にして樹本に止住う』という部分から、蝦夷は建物に居住しているのではなく、山の中の樹木の下で暮らしていると説明されていることがわかる。よって、この選択肢は正しい。
- d 選択肢 c の解説を参照されたい。

以上より、a・c である①が答えとなる。

（梶野裕貴、的場光紀）

2020 年度 センター試験 本試験 日本史 B

第 3 問 中世の社会

出題範囲	中世における入浴文化と社会
難易度	★★★☆☆
所要時間	得意：8分 ふう：9分 苦手：10分
傾向と対策	2020 年度の第 3 問は、中世における入浴や浴室・温泉に関するリード文をもとに、様々な基本事項を問うものであった。問われている内容自体は基本的なものであったが、問 2 のように史料文の正確な読解を求める問題も出された。このように、史料の読解力や基礎知識の応用力を問う問題は、2021 年度以降に実施が予定されている「大学入学共通テスト」でも多く出題されると思われるため、注意しておこう。史料問題は、答えが史料文中にそのまま書かれていることも多いので、注意深く（ミスなく）問題文を読み解くことを心がけよう。

A

問 1 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- X 正 院政期において、興福寺の僧兵（「奈良法師」と呼ばれる）は春日神社の神木（榊）を捧げて京都に入り、強訴を実行した。また、延暦寺の僧兵（「山法師」と呼ばれる）は日吉神社の神輿をかついで強訴を行った。よって、この文は正しい。なお、興福寺・延暦寺のことを南都・北嶺と呼ぶ。
- Y 誤 平安時代末期（院政期）に、朝廷が地方の武士を大量に動員して警護や強訴の鎮圧にあたらせたことは、武士の中央政界への進出を促進した。よって、むしろ武家の棟梁の地位は向上したと言えるため、この文は誤りである。

以上より、X—正、Y—誤である②が答えとなる。

問 2 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

- a 史料内の「逃亡の跡の麦蒔けと候て、追い戻し候いぬ」という部分から、（逃亡していない）百姓たちが逃亡した百姓の耕地に麦を蒔くように命じられたことがわかる。「逃亡した百姓を連れ戻して」という要素は史料にはない。
- b この選択肢は正しい。詳しくは選択肢 a の解説を参照されたい。
- c この史料は「百姓たちが荘園領主への訴願のために作成した」ものであると設問文に書かれている。また、

史料全体の内容から、地頭の横暴の影響を受けたために荘園領主への材木の納入が遅れた（注 12 を参照）ことを百姓らが訴えているとわかる。百姓らを使役したのは「荘園領主」ではなく「地頭」であるので、この選択肢は誤りである。

d この選択肢は正しい。詳しくは選択肢 c の解説を参照されたい。

以上より、b・d である④が答えとなる。

問 3 15 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 天竜寺も建仁寺も京都に建立された寺院である。室町時代、足利義満は臨済宗をあつく保護し、五山・十刹の制と呼ばれる寺格の整備を行った。この時、天竜寺・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺が京都五山とされた。なお、鎌倉に建立された寺院である建長寺と（京都の）建仁寺を混同しないように注意しよう。
- ② 大内氏の城下町の山口では、応仁の乱によって荒廃した京都から下ってきた多数の文化人や公家らによって、儒学や和歌などの講義が行われ、書籍も出版された。これらの書籍は大内版（山口版）と呼ばれる。水墨画家の雪舟や、儒学者の桂庵玄樹が活躍するなど、山口の文化水準は極めて高かった。
- ③ 大原女や桂女といった女性の行商人が活躍したのは京都である。大原女は炭や薪を売る行商人として、桂女は鮎を売る行商人として活躍した。よって、「奈良や堺」という部分が誤り。
- ④ 法華一揆を結んだのは、一向宗（浄土真宗）ではなく日蓮宗（法華宗）の信者である。法華一揆は、1532年に一向宗の本拠地である山科本願寺を焼くなど一向一揆と対立しつつも、京都の町政を自治的に運営した。しかし、1536年には、比叡山延暦寺との間で天文法華の乱と呼ばれる争いを起こし、その後数年間京都を追われることとなった。

以上より、答えは②である。

B

問 4 16 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① この選択肢は正しい。中世に作られた軍記物語としては、鎌倉時代に書かれ、諸行無常・盛者必衰の理念のもとに平家一門の栄枯盛衰の様を描いた『平家物語』や、室町時代に書かれ、南北朝の動乱の全体像を描いた『太平記』などが有名である。
- ② 悪党とは、鎌倉時代後期に、武力を行使して年貢の納入を拒絶したり、物資を略奪したりした武士たちのことを指す。悪党がこのような反領主的・反幕府的活動を展開したことを踏まえると、選択肢の「幕府の指示を受けて」という部分が誤りだと判断できる。
- ③ この選択肢は正しい。国人とは、室町時代において、地方に土着した武士たちの総称である。彼らは、国人

相互間の紛争や農民の抵抗をおさえるために、**国人一揆**と呼ばれる地域的な集団を形成した。

- ④ この選択肢は正しい。農民として領主に年貢を納める立場でありながら、**守護大名**などと主従関係を結んで侍身分を得たものを**地侍**と呼ぶ。彼らの中には、**足軽**として**戦国大名**の下級家臣を構成するものもいた。以上より、答えは②である。

問 5 17 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- X 正 **戦国大名**は、領国内の大河川の治水や灌漑事業を行った。甲斐の**武田信玄**が築いた**信玄堤**が最も有名な例である。よって、この文は正しい。
- Y 誤 **指出検地**とは、領主に知行地の面積や収入額を、農民に耕作地の面積や収入額を**自己申告**させる方式の検地である。よって、「役人を現地に派遣」という部分が誤りである。
- 以上より、X—正、Y—誤である②が答えとなる。

問 6 18 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

- I **問**（問丸）が現れたのは、**鎌倉時代**である。問（問丸）は、各地の湊や大河川の近くなどの交通の要衝に位置し、商品の中継や委託販売、年貢の運送や保管などの業務を行った。
- II **永楽通宝**が中国から輸入され国内で流通し始めたのは、**室町時代**である。従来の**宋銭**に加えて、**明銭**である永楽通宝が使用されるようになり、貨幣経済がさらに発達した。他方で、国内で鑄造された粗悪な**私鑄銭**も流通するようになり、**悪銭**を拒否し**良銭**のみを受け取ろうとする**撰銭**が横行した。
- III 関所や座の廃止などの政策がとられたのは、**戦国時代**である。戦国大名は、関所の廃止や市場の開設などによって、領国内の商業取引の円滑化に尽力した。また、**楽市令**（楽市・楽座令）を出すなど、自由で平等な商業取引を整備した。
- 以上より、古いものから年代順に正しく配列すると、I（鎌倉時代）—II（室町時代）—III（戦国時代）となり、①が答えとなる。

（梶野裕貴，的場光紀）

2020 年度 センター試験 本試験 日本史 B

第 4 問 近世における銀と鉄の生産や流通

出題範囲	近世における貨幣経済と産業の発展
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：7分 ふう：8分 苦手：9分
傾向と対策	2020 年度の第 4 問は、近世における銀や鉄の生産や流通をテーマにした問題であった。問われた内容には、やや細かいものもあり、苦勞した受験生も多かっただろう。教科書・参考書・図説などを活用して、地道に基本事項を覚えていくのが王道の対策となるだろう。なお、銀や鉄などの「金属」は歴史において重要なテーマの 1 つである。貨幣経済の発展と関連づけて論じられたり、産業の技術革新の原動力として論じられたりすることもある。このように、「金属」は経済史において重要なテーマであるので、経済史に苦手意識のある受験生はこの大問をよく復習しておこう。

A

問 1 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

ア ^{いわみ}石見銀山が入る。石見銀山も^{いくの}生野銀山も徳川氏によって直轄化されたため、リード文中の 2 つ目の はヒントにならない。すなわち、1 つ目の をもとに解答を導く必要がある。空欄の直前にある「中国地方の」という部分を参考にすれば、当てはまるのは石見銀山（現在の^{鳥根県}）であると判断できる。なお、生野銀山は現在の兵庫県に位置している。

イ ^{かいほくごししんれい}海舶互市新例（正徳新令）が入る。^{あらいはくせき}新井白石が 1715 年（正徳 5 年）に出した^{かいほくごししんれい}海舶互市新例（正徳新令）は、1 年間の銀の貿易額を、清船に対しては 30 隻・銀高 6000 貫、オランダ船に対しては 2 隻・銀高 3000 貫に制限することで、銀の国外流出を防ごうとするものである。^{あいたいすま}相対済し令は、^{享保の改革}享保の改革中の 1719 年に出されたもので、商取引や金銀貸借などの金銭に関する訴訟については、幕府は受理せずに、訴訟当事者間で解決することを求めるものであるが、のちに廃止された。

以上より、アー石見銀山、イー海舶互市新例（正徳新令）である①が答えとなる。

問 2 正解は⑤

難易度 ★★★★★

解説

I 「京都・堺・長崎の商人に、輸入生糸を一括購入させる制度」とは、^{いとわっぶせいと}糸割符制度のことを指す。江戸幕府は、1604 年に^{糸割符仲間}糸割符仲間と呼ばれる特定の商人に対して特権を与えることで、生糸の中継貿易で巨大な利益を

あげていたポルトガル商人に打撃を与えた。

- II 江戸時代前期における一連の鎖国政策の中で、スペイン船の来航が禁止されたのは 1624 年のことである。1639 年のポルトガル船の来航禁止と混同しやすいので注意しよう。
- III 大友義鎮（大友宗麟）は、1549 年に鹿児島に來航したイエズス会宣教師のフランシスコ＝ザビエルを保護したことでも有名なキリシタン大名である。よって、この文は 16 世紀に関して述べたものである。
- 以上より、古いものから年代順に III（16 世紀）— I（1604 年）— II（1624 年）となり、⑤が答えとなる。

問 3 21 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 江戸時代の貨幣流通に関して、江戸を中心とする東日本では金でできた貨幣（小判・一分金など）が主に用いられ（金遣い）、大坂を中心とする西日本では銀でできた貨幣（丁銀・豆板銀など）が主に用いられた（銀遣い）。よって、この文は金／銀と東／西の対応が逆転しているため、誤りである。なお、両替商はこのような貨幣流通の地域差を利用して利益をあげた。
- ② ①の解説でも述べたように、小判は金でできた貨幣である。金でできた貨幣は、1 両=4分、1 分=4朱の 4 進法に基づく計数貨幣であり、取引の度に両替商で重さを量る秤量貨幣ではない。なお、銀でできた貨幣は、もともと秤量貨幣とされていた。
- ③ 元禄時代において、幕府直轄下の鉱山からの金銀産出量の低下や明暦の大火後の江戸再建は、幕府財政を圧迫した。勘定吟味役（のちの勘定奉行）であった荻原重秀は貨幣改鑄を上申し、側用人の柳沢吉保の承認を経て、5 代将軍徳川綱吉は元禄小判を鑄造した。これは、従来の慶長小判よりも金の含有率が低いものであり、幕府の増収をもたらした一方で、貨幣価値の下落による物価の騰貴（いわゆるインフレーション）をもたらした。よって、この文は正しい。
- ④ 南鐐二朱銀を鑄造したのは、松平定信ではなく田沼意次である。この銀貨は計数貨幣として使うのに便利な銀貨であり、（計数貨幣である）金に一本化した貨幣制度の構築へ向けた第一歩としての意味合いがあった。
- 以上より、答えは③である。

B

問 4 22 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① 高機の技術を独占していたのは、京都の西陣である。18 世紀中頃になると、この技術による絹織物生産は上野の桐生をはじめとして、伊勢崎や下総結城などに広がっていく。高機の技術を「桐生の織屋が独占していた」という部分が誤りである。
- ② 佐賀藩（肥前藩）は、1850 年に日本で最初の反射炉を築き、大砲の鑄造を行い、藩権力の強化に努めた。

よって、この文は正しい。

- ③ 「入浜式にかわって揚浜式の塩田」が発達したのではなく、その逆である。塩田に人力で海水を汲み、自然蒸発によって塩を取り出す揚浜式（揚浜法）は、中世において用いられた製塩手法であるが、近世になると、砂浜に堤を築き、潮の干満を利用する入浜式（入浜塩田）が瀬戸内海沿岸部を中心に展開するようになった。
- ④ ヨーロッパから活字印刷術をもたらしたのは、シドッチではなくヴァリニャーニである。これによって九州を中心に金属活字を用いたキリシタン版が盛んになった。シドッチは、鎖国政策下の 18 世紀に、屋久島に潜入して捕らわれていたイタリア人宣教師である。シドッチへの尋問をもとに、世界の地理・物産・民俗に関して新井白石が『采覧異言』や『西洋紀聞』を著したことが知られている。

以上より、答えは②である。

問 5 23 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

- ① この文は正しい。江戸時代における村には、検地帳に登録されて高請地となった田畑や屋敷をもち、年貢・諸役を負擔し、村政に参加する本百姓（高持）と、田畑をもたず、地主のもとで小作人として生計を立てたり、日用（日雇）仕事に従事したりする水呑百姓（無高）が存在していた。
- ② この文は正しい。備中鍬は土を深く耕すのに適した農具である。備中鍬や千歯扱きなどに見られる農業技術の進歩は、17 世紀後半以降の農業生産力の向上に寄与した。
- ③ この文は正しい。江戸時代における農業生産力の向上は農民に経済的余裕をもたらし、年貢の米以外に商品作物を栽培することを可能にした。商品・貨幣流通の発展に伴って、各地に適した商品作物の生産に特化することが経済的に有利になると、出羽（村山）の紅花や阿波の藍、薩摩の黒砂糖などの特産品が生まれた。
- ④ 国訴とは、領主や特権商人による流通の独占に対して、在郷商人や百姓らが集団となって起こした反対運動のことをさす。1823 年に摂津・河内・和泉の 1000 以上の村が結集して起こしたものが代表的である。よって、「関東の村々」で組織されたものではなく、また、「江戸の間屋」を対象としたものでもないため、この文は誤りである。

以上より、答えは④である。

問 6 24 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- X 誤 史料二行目以下の「種々御普請これあり候えども、只今の通りにてはその甲斐これなき」という部分から、洪水対策に効果があったとは言えないことが読み取れる。よって、この文は誤り。

Y 正 史料四行目以下の「近来莫大の員数相増し候。…（中略）…遠からざる内、小鉄も払底に相成り、山林も伐り尽し、御郡中の衰微、眼前の事に候。」という部分から、「炉と鉄穴流しを行う場所が増加したため、近い将来、砂鉄の枯渇と山林の荒廃によって村々が衰微する」ことが述べられているとわかる。

以上より、Xー誤、Yー正である③が答えとなる。

（梶野裕貴，的場光紀）

2020 年度 センター試験 本試験 日本史 B

第 5 問 幕末から明治前期の民衆運動

出題範囲	近代における民衆運動
難易度	★★★★☆
所要時間	得意：5分　ふつう：6分　苦手：7分
傾向と対策	2020 年度の第 5 問は、幕末から明治前期における民衆運動について問う問題であった。問 3 や問 4 では、それぞれの出来事が起こった年代（年号）を正しく把握できているかが問われ、年代（年号）を覚えているか否かが得点を左右したと言えるだろう。特に、近代史に関しては、年代（特に重要な出来事については年号も）を把握しておくことが重要であるため、教科書・参考書・年表などを活用して地道に覚えていこう。2021 年度以降に予定されている「大学入学共通テスト」では、年代や年号を直接問う設問は減少すると思われるものの、出来事の時代背景を考えさせる問題などにおいては、年代（年号）を覚えていたほうが解きやすいものも多い。いずれにせよ、しっかり対策しておこう。

問 1 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

ア 日米修好通商条約が入る。1858 年に結ばれた日米修好通商条約は、(1) 神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港と江戸・大坂の開市、(2) 民間の自由貿易の承認、(3) 開港場における^{きょりゆうち}居留地の設置などを定めたものである。他方で、(4) ^{りょうじさいばんけん}領事裁判権の承認、(5) ^{かんぜいじしゅけん}関税自主権の欠如（協定関税制）といった条項も含む不平等条約であり、この条約の改正は明治前期の大きな政治課題であった。その後、幕府は同様の条約をオランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結んだ（^{あんせい}安政の 5 カ国条約）。リード文中の「自由貿易を取り決める」「イギリスなどと同様の条約を結び」といった記述から判断したい。日米和親条約（神奈川条約）は、1854 年に結ばれたものだが、自由貿易については定めていない。

イ 立志社が入る。立志社は、^{いたがきたいすけ}板垣退助が 1874 年に土佐で結成した政治的な結社（^{せいしゃ}政社）であり、自由民権思想の普及につとめた。翌年には、立志社を中心とする全国の政社の代表が大阪に集まり、^{あいこく}愛国社が設立された。^{こうじゆんしゃ}交詢社は 1880 年に^{ふくざわゆきち}福沢諭吉の関係者を中心に東京で結成されており、直前の「土佐の」に合致しない。

以上より、ア一日米修好通商条約、イ一立志社である③が答えとなる。

問 2 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 確かに1860年に金貨の改鑄は行われたが、新たに鑄造された^{まんえんこばん}万延小判は金貨の品位を大幅に低下させるものであったため、貨幣自体の実質的な価値が下がり、**物価は上昇**した。
- ② **株仲間の解散**は、老中^{みずのたかくに}水野忠邦のもとで行われた^{てんぽう}天保の改革期になされたため、下線部が示す「日米修好通商条約締結後の経済政策」ではない。
- ③ 1842年に出された（天保の）^{しんすいきゆうよれい}薪水給与令は、漂着した外国船に薪や水、食料などを与えることで、外国との対立や戦争を避けるために出されたものであり、物価高騰を抑えるために出されたわけではない。また、②の解説と同様に、下線部が示す「日米修好通商条約締結後の経済政策」でもない。
- ④ 1860年、雑穀・水油・蠟・呉服・生糸の5品目については、横浜への直送を禁止し、江戸の間屋を経た上で輸出するように命じる^{ごひんえどかいそうれい}五品江戸廻送令が出された。よって、この文は正しい。

以上より、答えは④である。

問3 27 **正解は④**

難易度 ★★★★★

解説

- I 自由党急進派の影響を受けた農民たちが^{こんみんとう}困民党（借金党）とよばれる集団を結成し、高利貸や警察を襲撃したのは、1884年の^{ちちぶじけん}秩父事件である。この混乱の中で統制力を失った**自由党は解党**に至った。
- II 民衆が「ええじゃないか」と唱え乱舞したのは、幕末の1867年のことである。これは、倒幕運動に有利に働いた。
- III ^{けつぜい}血税騒動（^{いっさき}血税一揆）が起きたのは、1872年以降のことである。1872年に出された^{ちゆうへいこくゆ}徴兵告諭に「血税」という文字があったことがそのきっかけとなった。翌年（1873年）には**徴兵令**が公布され、近代的軍隊の建設が進められた。

以上より、古いものから年代順にII（1867年）—III（1872年以降）—I（1884年）となり、④が答えとなる。

問4 28 **正解は②**

難易度 ★★★★★

解説

下線部の「^{かばさん}加波山事件」「**大阪事件**」が起きたのは、それぞれ1884年、1885年である。

- ① **内閣制度**が定められたのは、1885年の12月である。これによって、各省の行政長官が**国務大臣**とされ、それらを統括する**内閣総理大臣**の下に構成される**内閣**が、制度上は政治運営の中心となった。
- ② ^{にかかい}二科会が創立されたのは、1914年である。在野の洋画団体である二科会は、梅原龍三郎や安井曾太郎らを輩出した。明らかに1880年代の出来事ではないので、この文は誤りである。
- ③ ^{みつびし}三菱（^{きせん}汽船）会社と共同運輸会社が合併して**日本郵船会社**が設立されたのは1885年のことである。日本郵船会社は、政府の保護のもと、**大阪商船会社**と並んで、沿岸航路から外国航路にも進出した。

- ④ 朝鮮で^{こうしんじへん}甲申事変（甲申政変）が起こったのは、1884 年 12 月である。これは、^{きんぎょくきん}金玉均や^{ぼくえいこう}朴泳孝などの開化派（「独立党」と呼ばれた）が、日本公使の援助のもとにクーデターを起こしたが、清軍によって鎮圧された事件である。翌年には、日本の^{ひろぶみ}伊藤博文と清国の^{りこうしょう}李鴻章との間で^{てんしんじょうやく}天津条約が結ばれ、両軍の朝鮮からの撤兵や今後の出兵時の相互通告などが定められた。

以上より、答えは②である。

（梶野裕貴，的場光紀）

2020年度 センター試験 本試験 日本史 B

第6問 近現代の風刺漫画

出題範囲	近現代における政治と言論空間
難易度	★★★☆☆
所要時間	得意：9分 ふうう：11分 苦手：12分
傾向と対策	2020年度の第6問は、近現代における政治と風刺漫画との間の距離感をテーマにした問題であった。問われた内容は基本的なものが多かったと言えるだろう。近現代史（特に戦後史）は後回しにされがちな分野であるが、この分野もきちんとおさえられていたか否かが得点に直結したと思われる。教科書や参考書を活用し、近現代史（特に戦後史）も手を抜かないようにするのが良いだろう。なお、問8は2021年度以降実施が予定されている「大学入学共通テスト」で出題されてもおかしくないような設問であった。新テストを受ける受験生は、問題演習などを通じて、このような設問に慣れておくのが良いだろう。

A

問1 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ア 新聞紙条例が入る。新聞紙条例は1875年に^{さんぼうりつ}讒謗律とともに発布されたもので、反政府的な言論活動や自由民権運動の取締りを目的に定められたものである。治安警察法は、農民運動や労働運動などの社会運動を規制するために1900年に公布されたものである。リード文中の「1875年の」という部分から判断したい。
- イ ^{たいぎやく}大逆事件が入る。大逆事件とは、1910年に明治天皇暗殺を計画したという理由で^{こうとくしゅうすい}幸徳秋水などの多数の社会主義者が逮捕され、その翌年に処刑された事件である。三・一五事件は、^{ぎいち}田中義一内閣のもとで、1928年に多数の共産党員が検挙され、関係団体が解散させられた事件である。この事件の際には、1925年に成立した治安維持法が適用された。リード文中の「1910年」という部分から判断したい。

以上より、ア—新聞紙条例、イ—大逆事件である④が答えとなる。

問2 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

- I ^{たいわん}台湾出兵が行われたのは、1874年のことである。台湾に漂着した琉球民が現地民によって殺害された事件を契機として、政府は^{さいごうつぐみち}西郷従道を指揮官とする軍隊を台湾に派遣した。
- II 日露戦争が行われたのは、1904～1905年のことである。日本軍の^{りょじゅん}旅順攻撃と^{インチョン}仁川上陸に始まったこの戦争は、1905年5月の日本海海戦における日本軍の勝利をきっかけに和平へと進み、アメリカ大統領セオド

ア＝ローズヴェルトの仲介のもとでポーツマス条約が調印された。この条約によって、日本は(1)朝鮮半島(韓国)における権益の承認、(2)旅順・大連の租借権、(3)長春・旅順間の鉄道とそれに付属する権利などを得たが、賠償金を得られなかったことなどへの不満から日比谷焼打ち事件が起きた。

Ⅲ 西南戦争が行われたのは、1877年のことである。士族反乱が相次ぐ中、鹿児島において、私学校の生徒を中心とする不平士族らが、下野していた西郷隆盛を擁して挙兵したのがその始まりである。この戦争における政府軍の勝利は、徴兵制に基づく近代的軍隊の威力を示すことになった。

以上より、古いものから年代順にⅠ(1874年)―Ⅲ(1877年)―Ⅱ(1904～1905年)となり、②が答えとなる。

問3 31 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

日露戦争が行われたのは1904～1905年のことである(詳しくは、問2のⅡの解説を参照されたい)。

- ① 日露戦争後の1905年11月に結ばれた第2次日韓協約(韓国保護協約、乙巳保護条約)によって、日本は韓国の外交権を掌握し、韓国の首都漢城(現在のソウル)に統監府が設置された。初代統監は伊藤博文であった。よって、この文は正しい。
- ② 北京議定書が締結されたのは、1901年であり「日露戦争後」ではない。「扶清滅洋」というスローガンを掲げ、清国内で外国人排斥運動を行った義和団が起こした反乱に対して、1900年、日・米・英・露・仏などの列国は軍隊を派遣し、これを鎮圧した。翌年(1901年)には、北京議定書が調印され、清は列国に膨大な賠償金を支払い、列国の北京駐兵権が認められることとなった。この一連の事件を北清事変(義和団事件)と呼ぶ。
- ③ 日本が「軍艦を江華島付近に派遣して朝鮮を挑発した」のは、1875年の江華島事件である。この事件を契機として、翌年(1876年)には日朝修好条規(江華条約)が結ばれ、朝鮮は開国に至った。これは「日露戦争後」ではない。
- ④ 東アジアにおけるロシアの台頭を警戒した日本とイギリスは1902年に日英同盟協約を結んだが、これは「日露戦争後」ではない。

以上より、答えは①である。

B

問4 32 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

- ① 第一次世界大戦がもたらした空前の好況の中で、賃金の上昇以上に物価が急騰したこと(インフレーション)は、労働者の生活を圧迫した。ロシア革命や米騒動などの影響も受けて労働運動は活発化し、1920年には

日本初の**メーデー**が行われた。

- ② 戦時中に日本の国際収支は急速に改善（詳しくは、④の解説を参照されたい）した。これによって、1914 年末に約 11 億円の債務を抱えていた日本は、1920 年には約 27 億円の債権をもつ**債権国**に転じた。
- ③ **第一次世界大戦**をきっかけに急増した軍需や船舶需要は、造船業・鉄鋼業などの**重化学工業の拡大**に寄与した。また、綿糸や綿布の対中輸出の急増や生糸の対米輸出の伸張は、紡績業・綿織物業や製糸業といった**繊維産業のさらなる発展**に繋がった。よって、「繊維産業は衰退した」という部分が誤りである。
- ④ 戦時中における貿易額の飛躍的な上昇と活発な輸出（詳しくは、③の解説を参照されたい）によって、1915 年には、日本の貿易収支が**輸出超過**に転じた。その結果、日本の国際収支は大きく改善され、大幅な黒字となった。

以上より、答えは③である。

問 5 33 **正解は②**

難易度 ★★★☆☆

解説

- X 『東洋経済新報』の誌上で植民地放棄論（小日本主義）を展開し、貿易関係をより重視するなどの**自由主義**的主張を展開したのは、ジャーナリストの**石橋湛山**である。戦後、石橋は**鳩山一郎**の後の**自由民主党**総裁に就任し、1956 年 12 月に組閣したものの、病に倒れて 1957 年 2 月に**岸信介**内閣に交代した。b の**北一輝**は、革新的な「国家改造」を主張した**国家主義者**であり、彼の『日本改造法案大綱』は軍部の青年将校・中堅将校、民間右翼に大きな影響を与えた。
- Y 明治中期以降、雑誌も新聞と並ぶ重要な言論機関としての役割を果たすようになった。時事評論を中心とする**総合雑誌**である『中央公論』は、吉野作造による**民本主義**に関する論文を 1916 年に掲載するなど、民衆の政治意識の成長に寄与したと言える。c の『白樺』は、総合雑誌ではなく文芸誌であるため、Y には該当しない。同誌では、**武者小路実篤**や**志賀直哉**などの**白樺派**が活躍した。

以上より、X-a、Y-d である②が答えとなる。

問 6 34 **正解は④**

難易度 ★★★☆☆

解説

- ① **血のメーデー事件**（メーデー事件）が起き、**破壊活動防止法**が制定されたのは 1952 年であり、昭和期であるので、この文は設問の条件に合致しない。この事件では、皇居前広場に突入したデモ隊 6000 人と警官隊 5000 人が衝突し、2 人が射殺され、1230 人が検挙された。
- ② **ジーンズ事件**（シーメンズ事件）の責任を問われて 1914 年に総辞職したのは、第 1 次若槻礼次郎内閣ではなく、第 1 次**山本権兵衛**内閣である。その後、**元老**の推薦を受けた**大隈重信**が立憲同志会を与党として第 2 次大隈内閣を組閣した。

- ③ **大日本産業報国会**が結成されたのは**1940年**であり、昭和期であるので、この文は設問の条件に合致しない。戦時体制のもとで従来の労働組合は産業報国会に改組されたが、その中央統一組織である大日本産業報国会は傘下に418万人を抱える巨大な団体であった。
- ④ **1924年**、立憲政友会、憲政会、革新倶楽部は**護憲三派**を結成し、当時の清浦奎吾内閣の打倒を目指す**第二次護憲運動**を展開した。同年の総選挙で圧倒的な勝利をおさめた護憲三派は、憲政会総裁の**加藤高明**を首相とする内閣を組織し、**1925年**には**普通選挙法案**が成立した。

以上より、答えは④である。

C

問7 35 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- X 正 **アジア太平洋戦争**（**太平洋戦争**）期には、働き盛りの労働者が兵士として召集されたことによる労働力不足が深刻となり、女性も**勤労働員**され、未婚の女性は**女子挺身隊**として工場労働などに従事した。
- Y 正 **1938年**に公布された**国家総動員法**に基づいて、**1939年**に**国民徴用令**が勅令で発布され、一般国民は軍需産業などの重要産業に動員されるようになった。

以上より、X—正、Y—正である①が答えとなる。

問8 36 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

- a 「田」の字の上であぐらをかいている事、「農地改革指令」のこん棒が振り下ろされていること（＝農地改革指令の対象となっていること）などから、図の人物は**地主**を表している。よって、この選択肢は正しい。**農地改革指令**は、**寄生地主制**の除去と**自作農**の増加を目指してGHQが日本政府に対して1945年12月に出したものである。二度にわたる**農地改革**の結果、500万町歩の耕地のうち、40%の200万町歩はその所有者が代わり、小作地240万町歩の80%が開放されるなど、**自作農**が大幅に増加した。小作地は全体の10%となり、小作農も5%にまで減少し、農村における地主の社会的地位は下落した。
- b aの解説を参照されたい。
- c aの解説を参照されたい。この選択肢は正しい。
- d aの解説を参照されたい。

以上より、a・cである①が答えとなる。

（梶野裕貴，的場光紀）